

# 巨木の里ときがわ



## ① 七重のヤマザクラ B-2

バラ科の落葉高木。サクラの中でもエドヒガンは巨木になることが多いが、ヤマザクラの巨木は珍しい。これは県内最大の山桜で、ねじれた太い幹に特徴がある。ソメイヨシノより遅れて開花し、小ぶりの花を咲かせる。幹周り：4.10m(2002年計測)

◆町指定文化財



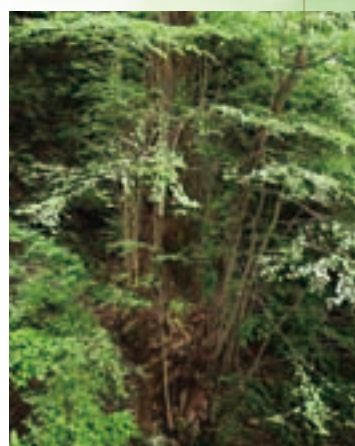
## ⑥ 砥石のヒノキ B-4

ヒノキ科の常緑高木。スギよりも生長は遅く、50年前後で伐採されることが多いが、このヒノキは山の神の御神木として守られてきた。合体している木はシデ(ソネ)である。前を通る道は、横峠(ぶなとうげ)への旧道を拡張したもの。かつては峠越えて飯能市吾野との交流が盛んだった。地名の由来は、この辺で砥石が採れたからだという。幹周り：3.72m(2002年計測)



## ⑦ シロヤシオ C-4

ツツジ科の落葉低木。正式名称はゴウツツジだが、地元ではシロフウリンとも呼ばれてきた。五月ごろ、葉と同時に白い花をつける。樹皮が古くなると松に似てくるので松膚ともいわれる。山中に自生するが、これほど太いものは珍しい。周囲の木々が生長したためか、かなり衰弱している様子が見られる。※奥武蔵グリーンライン沿いに導標あり



## ⑧ カツラ C-4

カツラ科の落葉高木。漂流沿いなどの水気の多い山中に生育することが多い木である。丸みを帯びたハート型の葉に特徴があり、春の新芽、秋の黄葉ともに美しい。秩父地方の山間部ではごく普通に見られるが、外秩父のこのあたりでの生育は珍しい。株立ちはカツラの特徴で、この木の場合も多数のヒコバエが伸びている。幹周り：3.00m(2002年計測)



## ④ 越沢稲荷の大スギ C-3

スギ科の常緑高木。建築材として広く植えられ、特産の建具の材料にもなっている。たいていは30年から50年で伐採されるが、巨木として保護されているものも少なくない。このスギは萩日吉神社(西平)の児持杉に次ぐ大きさで、地面に着くほど垂れ下った枝に特徴がある。越沢稲荷の御神木として親しまれている木である。幹周り：6.05m(2002年計測)

## ⑤ スギとシラカシ C-3

スギは途中から太い大枝を出している。根元にある祠は山の神をまつたもの。その下にあるシラカシはエボガシとも呼ばれ、かなりの古木と思われるが、衰弱が激しい。  
●スギ  
幹周り：4.25m(2002年計測)  
●シラカシ  
幹周り：3.50m(2005年計測)

## ③ 向尾根のヤマザクラ C-3

バラ科の落葉高木。愛宕社の正面に御神木のように生えている巨木である。ヤマザクラには珍しく根元から多数の幹に分かれ、四方に枝を広がっている。2005年、そのうちの一本が折れてしまったが、樹勢が弱った様子は見られない。

## ② 石小土のヤマザクラ B-3

バラ科の落葉高木。ヤマザクラとして際立って太いわけではないが、スギが植林される際にも切り倒されることなく保護されてきた。幹周り：3.00m(2002年計測)

## ① 七重のヤマザクラ B-2

バラ科の落葉高木。サクラの中でもエドヒガンは巨木になることが多いが、ヤマザクラの巨木は珍しい。これは県内最大の山桜で、ねじれた太い幹に特徴がある。ソメイヨシノより遅れて開花し、小ぶりの花を咲かせる。幹周り：4.10m(2002年計測)

## ⑥ 砥石のヒノキ B-4

ヒノキ科の常緑高木。スギよりも生長は遅く、50年前後で伐採されることが多いが、このヒノキは山の神の御神木として守られてきた。合体している木はシデ(ソネ)である。前を通る道は、横峠(ぶなとうげ)への旧道を拡張したもの。かつては峠越えて飯能市吾野との交流が盛んだった。地名の由来は、この辺で砥石が採れたからだという。幹周り：3.72m(2002年計測)

## ⑦ シロヤシオ C-4

ツツジ科の落葉低木。正式名称はゴウツツジだが、地元ではシロフウリンとも呼ばれてきた。五月ごろ、葉と同時に白い花をつける。樹皮が古くなると松に似てくるので松膚ともいわれる。山中に自生するが、これほど太いものは珍しい。周囲の木々が生長したためか、かなり衰弱している様子が見られる。※奥武蔵グリーンライン沿いに導標あり

## ⑧ カツラ C-4

カツラ科の落葉高木。漂流沿いなどの水気の多い山中に生育することが多い木である。丸みを帯びたハート型の葉に特徴があり、春の新芽、秋の黄葉ともに美しい。秩父地方の山間部ではごく普通に見られるが、外秩父のこのあたりでの生育は珍しい。株立ちはカツラの特徴で、この木の場合も多数のヒコバエが伸びている。幹周り：3.00m(2002年計測)

## ④ 越沢稲荷の大スギ C-3

スギ科の常緑高木。建築材として広く植えられ、特産の建具の材料にもなっている。たいていは30年から50年で伐採されるが、巨木として保護されているものも少なくない。このスギは萩日吉神社(西平)の児持杉に次ぐ大きさで、地面に着くほど垂れ下った枝に特徴がある。越沢稲荷の御神木として親しまれている木である。幹周り：6.05m(2002年計測)

## ⑤ スギとシラカシ C-3

スギは途中から太い大枝を出している。根元にある祠は山の神をまつたもの。その下にあるシラカシはエボガシとも呼ばれ、かなりの古木と思われるが、衰弱が激しい。  
●スギ  
幹周り：4.25m(2002年計測)  
●シラカシ  
幹周り：3.50m(2005年計測)



| ◎ 凡 例 ◎ |          |
|---------|----------|
|         | 公衆トイレ    |
|         | 障害者用トイレ有 |
|         | バス停      |
|         | 鉄 道      |
|         | 県 道      |
|         | 一般道      |
|         | 山        |



## ⑨ 姥 榎 C-4

和名はアカガシ(赤榎) ブナ科の常緑高木で、比較的暖かい地方の山地に多い。地元では古くからウバツカシと呼ばれてきた。姥のような老樹という意味らしい。幹は大きくねじれることで、より頑強さを増している。イチイガシの巨木は多いが、アカガシでこれほどのものは全国的に見ても稀少である。幹周り：6.58m(2002年計測)

◆町指定文化財



## ⑩ スダジイ C-2

慈光寺から町道を霊山院(りょうぜんいん) 方向に進み、坐禅堂の裏、水道施設横にあるシイの巨木。幹周り：3.95m(2002年計測)



## ⑪ 日枝神社のケヤキ D-3

日枝神社の石段をのぼり、社殿の裏にひっそりと佇む、神社の御神木。推定樹齢700年。幹周り：6.87m/樹高：16m(2002年計測)

◆町指定文化財



## ⑫ リンボク E-2

バラ科の常緑小高木。龍福寺の山際に高さ5m程の常緑の広葉樹がそびえている。特徴としては幹に横網があり、葉は光沢をもつ細い楕円形をしており、波打っている。主に西日本の暖かい地方に自生。寒暖の差の激しい内陸部では自生しにくく県内では最北域に自生。

◆町指定文化財



## ⑬ 日影神社のスギ D-1

スギ科の常緑高木。日影神社の御神木として親しまれている木である。推定樹齢400年。日影の地名の由来は四方が山に囲まれていることにちなむという。幹周り：3.50m/樹高：15m(2000年計測)



## ⑭ 春日神社の杜 E-2

この森は、鎮守の杜として人々に親しまれてきた。冬でも豊かな緑の葉をえたスダジイやアラカシ、タブノキ等の大木がこんもりと繁り、林内にはヤブツバキやサカキ等が多数育って風格のある照葉樹林となっている。この照葉樹林は、遠い昔の玉川地域の自然の姿を今にとどめている、ふるさとを代表する自然の森である。

◆県指定ふるさと森